

資料2-2

平成30年9月7日

第2回言語バリアフリー関係省庁連絡会議

# 多言語化に係る文部科学省の取組状況



文部科学省

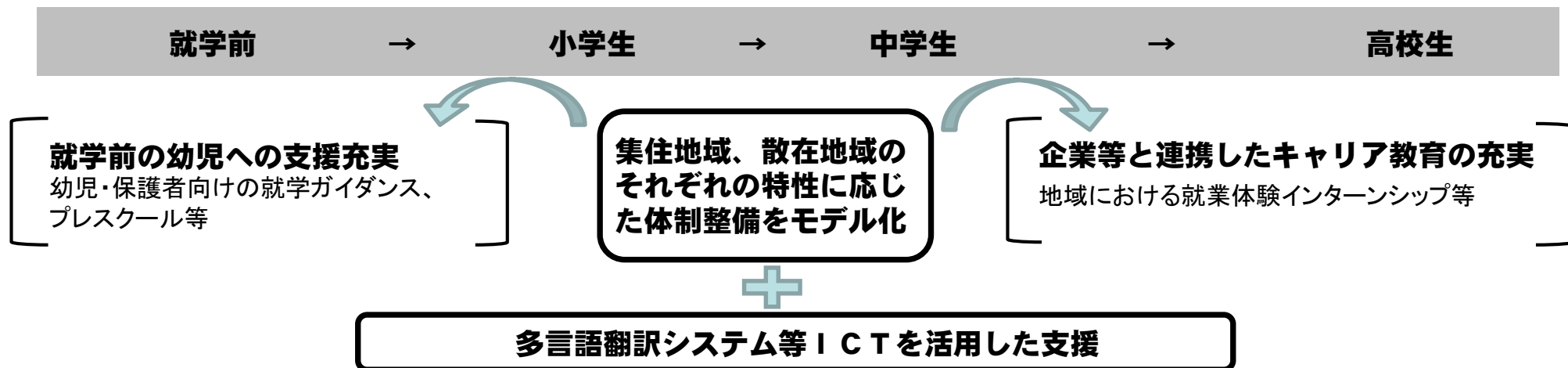
MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 学校における日本語指導が必要な児童生徒への対応

日本語指導が必要な児童生徒数・・・約4万4千人  
(10年間で1.7倍)

## 【校内の支援・指導体制の構築】

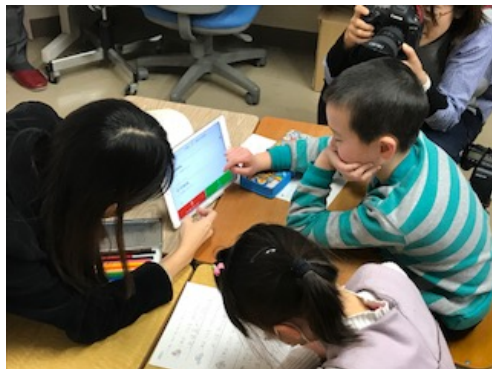


## 【VoiceTra等「多言語翻訳アプリ」等ICTを活用した支援:

多言語翻訳システム等ICTを活用した帰国・外国人児童生徒等のための支援事業】

### ＜横浜市の事例＞

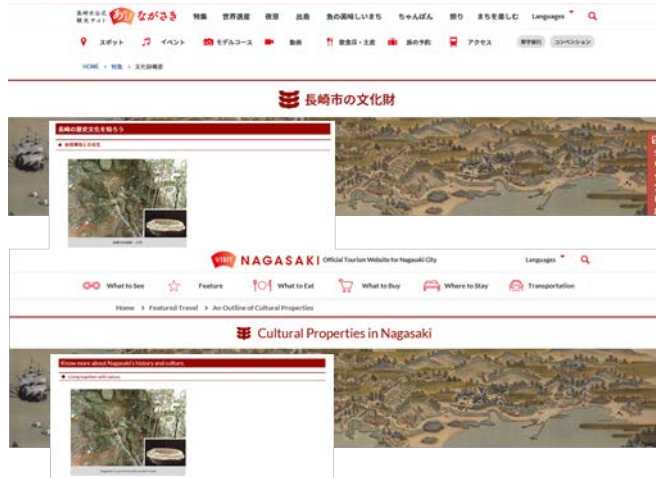
新渡日の児童生徒への初期日本語指導、保護者との懇談などにおいて、スムーズに意思疎通をし、指導・支援を充実させている。



# 文化財に対する多言語解説の整備①

## 【日本の歴史・伝統文化情報発信の推進：文化遺産総合活用推進事業】

外国人旅行者が理解しやすい文化財の解説作成や、**多言語での情報発信**を実施する取組を支援。



長崎市公式観光サイト「あっ！とながさき」内コンテンツ「長崎市の文化財」の多言語化(上:日本語、下:英語)(長崎市)



文化財説明版の多言語化  
(左:従来、右:多言語化後)(長崎市)



英語、仏語、繁体語、簡体語、韓国語版の文化施設パンフレットと英語版の観光マップ(金沢市)

## 【国立博物館における多言語対応】

3ヶ国語(英・中・韓)対応の音声ガイド



アプリ端末・音声ガイド貸し出しサービス  
(東京国立博物館)

7ヶ国語(日・英・中・韓・仏・独・西)  
対応の案内パンフレット



(東京国立博物館)

4ヶ国語(日・英・中・韓)対応の館内案内・誘導



(京都国立博物館)



# 文化財に対する多言語解説の整備②

【文化財多言語解説整備事業（国際観光旅客税充当）】（新規）  
30年度予算額 500百万円

## 概要

訪日外国人旅行者の地域での体験滞在の満足度を向上させるため、文化財に対して多言語で先進的・高次元な言語解説を整備する事業を、観光施策と連携させつつ実施。

## 事業内容

文化財中核観光拠点200か所を中心として、先進的・費用対効果の高い多言語解説を整備。



（AR技術を使用した多言語解説）



（音声ガイドの多言語解説）



（HPの多言語解説）

文化財活用・理解促進戦略プログラム2020（抄）  
（平成28年4月 文化庁策定）

### 2020年までの目標

- ・文化財単体ではなく地域の文化財を一体とした面的整備や分かりやすい多言語解説の整備などの取組を1000事業程度実施するとともに、日本遺産をはじめ、文化財を中核とする観光拠点を全国200拠点程度整備

文化財の理解を深め、外国人旅行者の地域での体験滞在の満足度を向上。

国直轄で多言語化を強かに推進

観光庁・文化庁・環境省の予算連携による解説整備  
観光庁予算：3億 文化庁予算：5億 環境省2.5億

観光庁  
コンテンツ作成（新規予算）

分かりやすい多言語  
解説整備推進委員会

文化庁  
先進的・高次元な整備（新規予算）  
＋案内板等の整備（既存予算）

- ◆ 従来の文化庁事業にあるような単なる案内板やパンフレットの多言語対応とならないよう、訪日外国人旅行者の増加数や満足度をKPIとして設定。
- ◆ 施策の事業効果を検証できる枠組みを設けた上で、第三者の評価も行い、適切なPDCAサイクルを実現。